

相模原商工会議所 景気観測調査結果

(令和3年1月～3月)

景況は全体的には回復傾向が鮮明になってきている。しかし深刻な状況が続く事業者も依然として多く、事業者による業況の差が広がっている。

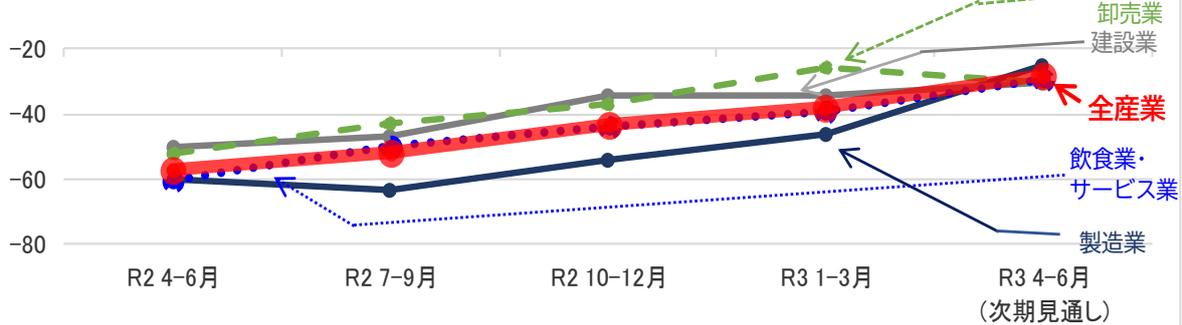
ポイント

- ▶ 令和3年1月～3月期の総合業況DIは▲38と、前期▲43から5ポイントの改善。前期が深刻な状況であった製造業(前期▲54・今期▲46)と小売業・卸売業(前期▲37・今期▲26)は改善した。飲食業・サービス業(前期▲44・今期▲39)もやや改善が見られたが、建設業(前期▲34・今期▲34)は前期から変わらず。
- ▶ コメントによると、全業種において依然として厳しい業況を訴える事業者が多いが、景気が回復し好況な事業者も増えてきており、同一業種でも好不況の差が広がっているようである。また、海外との取引がある企業では、取引先国が変わったり、価格が高騰したりするケースが散見され、一部の業種で、新型コロナウイルスの影響の長期化が、国際的な取引環境に変化をもたらしているようである。
- ▶ 次期見通しについては、総合業況DIは▲28と、今期▲38から10ポイント改善の見込み。製造業(今期▲46・次期▲25)と飲食業・サービス業(今期▲39・次期▲29)は大幅な改善の予想であり、建設業(今期▲34・次期▲30)も改善を見込む。今期大幅な改善が見られた小売業・卸売業(今期▲26、次期▲30)は若干の悪化の予測であり、全業種が▲30程度となりDI値では改善を見込む傾向にあるものの、コメントによると依然として厳しい状況を想定しているようである。

各業界から寄せられたコメント

- ・【紙製品生産/化成品生産】コロナ禍での対策は経済優先にシフトするべき。
- ・【クリーンルーム施工】工事の大幅減少、感染症対策の大幅増加、手間が増え収益性減少、新規取引先が増え回収期間が悪化。
- ・【生花販売】「海外便」の減少に伴い、仕入れが高騰。
- ・【飲食店経営】近隣飲食店舗の多数撤退による賑わいの低下。
- ・【学校用品、学生服販売】相模原市とPayPayコラボによる経済活性化策は良かったです。今後もこのような施策を期待しています。

業況別(総合判断)DI値の推移



	前々期概況 (R2.7-9)	前期概況 (R2.10-12)	今期概況 (R3.1-3)	次期見通し (R3.4-6)
製造業	▲63	▲54	▲46	▲25
建設業	▲47	▲34	▲34	▲30
小売業・卸売業	▲43	▲37	▲26	▲30
飲食業・サービス業	▲50	▲44	▲39	▲29
総合	▲52	▲43	▲38	▲28

業況天気図凡例

DI値 50以上	DI値 30~49	DI値 10~29	DI値 ▲11~▲30	DI値 ▲31以下

調査期間: 令和3年1月1日～3月31日
 回答率: 25.0%
 調査対象: 当所会員事業所3,733社

回答者数: 932件

景気観測調査

前年度同時期との景況を比較し、「良い/悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。
 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。